

めだかの学校だより

平成12年5月1日
第28号
学舎：いなさ自然休養村
くつみくさ
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL 053-545-0381

校長訓話

第二十八回校長 森下幸子

林業という業(ごう)を楽しんで

3月26日、寒の戻りとやら、庭先の溜まり水は薄氷が張り、寒風が吹きすさぶ。仕事仲間と「この寒さでは仕事にならないから、春野へすみれを見に行こうよ！」相談は即、決まり。美味しい昼食をリンデンバウムで戴き、丁寧に道順を教えてもらい、意外に遠く感じた春野町へ一路。

「すみれ道」の看板頼りに、尾上美智子メダカ邸へ。想像を絶するやさしく美しいすみれ群のモニュメントに迎えられ、花好きの友とその丹精のすみれに感嘆のし通し。

そして更に、驚き嬉しかった事は、寒風の中に「メダカ生徒」数人が「すみれ飾り」のお手伝いをしているのに出会って「マア！マア！」と又々感嘆！

こつこつとすみれ栽培を続けた、尾上さんも素敵！それを助けに出かける「メダカ生徒」も素敵！沢山の感動を受けた一日。

こんな素晴らしい人達で構成される「めだかの学校」の校長先生を指命(名)さ

れ緊張。

私は誰が名付け親か、「木登り迷人」。さて実体は？

目まぐるしい社会の変遷の中で「林業」という業は、極一部の林家を除けば成り立たない「業」と成って仕舞ってから久しい。



私は取るに足りない小さな林家の嫁or娘。父の無い家では明治生まれの祖父が、わずかばかりの山に強い執着心を持ち、私も学校卒業と同時に家を継ぎ、山仕事や野良仕事を「業」とする様に心身共にたたき込まれた。

春は植林に「若いから苗木背負いをヤレ」と一日に高い山迄背負板に杉松の苗を結わえては、何度も上り下りをした。夏は下刈り「若い者、家の者は場の悪い所をヤレ」と言われ岩場で足の置き場の無い様な所の草を刈った。

秋は枝打ち「ひげが剃れるまで鉋を磨げ、一日に何本ヤレとは言わない、傷木を作らない様に心を込めて打て」と。これは大変難しい仕事だった。生来不器用で短気な私。どれ程多くの傷木を作った事か。「いい加減な仕事はやらない方が良く、家へ帰って寝ておれ」とも言われた。時の流れは私の身にも様々な変化をもたらし、「家」総てをこの両肩に背負って12年。

多くの人達の助けを戴きながら、低落した「林業」の「業(ごう)」に益々はまって生きている。貧乏も重労働も大いに楽しみ感謝しながら。どんなに「駄目づくし」の林業でも農業でも、止める事は不可能である。

食も住も日本と言う地球の土で育った物が一番だと言われる。昨年は農山村に対する基本法も大きく変えられた。

第一に国策が大事な事は解るが、矢張りその地域に住む人々の心の有り様が、地域を支え変え、やがては国も地球も変えるだろう。



めだかの学校伝言板

..... 第28回めだかの学校を開校するので出席しなさい。 開校日/平成12年6月2日(金)6:20PMより

校長/森下 幸子・教頭/中嶋 豊 受付/佐藤律子・藤森照明・服部守孝(後見人)

用務員/耳塚 信博

給食係/吉林 宏・徳増兼弘・伊達公一

山下愛子・鈴木真弓・野村徳子

今村純子・市川美鈴・鈴木正子

渡辺三ツ子(チーフ)

時間割/分散討論

「大いに語ろう 21世紀のあなたの夢は…」

8班に分かれて、座長のもとに大いに夢を語りあう。

ワイワイニケーション。

座長候補/加藤修一・深澤明男・水野忠義・田邊 哲

川島安一・今村純子・藤原俊子・久米かよ子

片瀬信江・金子芳美

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286

いなさ自然休養村「くつみくさ」

TEL 053-543-0321 (開校日のみ)

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■すみれの道ゆき

この3月末から4月の末まで、春野町の熊切川のほとりで「すみれ」をテーマとした類いまれなイベントが開かれ、メダカの生徒をはじめ多くの人が集まった。宝塚歌劇団のテーマ曲となっている「すみれの花咲く頃」の作曲者である白井鉄造氏が春野町の生まれであることから、町の皆さんは以前から「すみれの里」づくりを進めてきている。そのけん引役であった尾上美智子さんが、独自の新しい取り組みとして、自宅とその周辺を会場に「すみれの道ゆき」と題し、すみれの展示やコンサートに加えて交流会など多彩プログラムを盛り込んだ催しを開いたものである。尾上さんが何よりもかわいがっている150種8000鉢にも及ぶさまざまなすみれは、この時期に合わせて咲くように温室で育てられ、山から運び出してきた大木の根や孟宗竹で作った花台などを使って庭や熊切川沿いの小道のあちこちに配置展示されていた。自宅脇の納屋も、昔の農機具やいろいろな道具類といっしょに可憐なすみれが展示されていて、すみれを主人公としたとてもユニークで大胆な造形アートの空間が創り出されていた。準備にも多くのメダカの生徒が駆けつけたが、大半は尾上さんの知人で大手の建設会社の社員とその仲間の美術大学の助教授や学生達が、企画から実際の運営までを進めた。この結果、多少都会人が田舎に入り込んで来て都会の感覚、都会人から見た価値観を押し付けたような部分もあったが、本番の幕開けまで大変な苦勞があったにもかかわらず、訪れたお客様一人一人を丁寧に案内しすみれの育て方や良

さを話しされるなど、尾上さんの心からのおもてなしが、そんなこともかき消して、楽しく、大変充実感を味わせてくれるイベントであった。この「すみれの道ゆき」の2週間後に恒例となった官製イベントの「春野てんぐ祭」があり、私も尾上さんとジョイントで「すみれソバ」を無料で振る舞ったが、祭りにはたまた多くのテントを並べて見慣れた産物を販売し飯設ステージでは誰も聞いていない主催者や来賓の挨拶のあとにはクイズや芸人のショーなどで、お客の数は結構多かったが本場に春野の良さを楽しんでもらうものでもなかった。それに比べて「すみれの道ゆき」は、訪れた人の数は少ないものの、各地から各界の方々が参集しすみれそのものに加え、周囲や道中の自然や草花を堪能し、人と人との交流に新しい世界を発見し、本当の春野ファンになった方々は圧倒的にこちらが多いはずである。ろくな手伝いもせず、無責任極まりないが来年もまた是非取り組んでいただきたいものである。

(なんでもあり農園「小作人の松」)

■玉置洋一メダカが情熱を傾けた 遠山温泉郷「かぐらの湯」が誕生

3月13日、南信濃村中心部に近い夜川瀬に建設、オープンした。地場のヒノキや杉の丸太材や板材をふんだんに使った純木造建築でコンセプトは「村民の健康増進、来村者との交流を促進する新感覚の健康リゾート」。温泉施設としては内湯サウナ打たせ湯露天風呂、ひのき風呂、寝湯など、交流施設としてホールや研修室、郷土料理味わい処、特産物販売施設など備えている。入湯料は一般大人六百円、子供四百円。営業時間は4月11月午前10時から午後9時、12月3月は午前11時から午後9時。これといった大きな産業がない、山の中の小さな村は、人々との交流を通しての観光立村を目指すこ

とで、地域の活性化を促そうとしている。この事業では、役場の課長であり、「めだかの学校」の生徒である、玉置洋一メダカの情熱におおとうところが大きい。またこの施設に併設される菓子製造の指導には、浜北の松本泰榮メダカが奉仕活動よろしく協力している。二年前には、地域にあった「そばまんじゅう」に、現代感覚を加味することの指導をして、いまでは、年間二千万円の売り上げをするまでになっている。自らの仕事も多忙なのに、マイッタマイッタと言いつつ汗を流している。

■鈴木芳雄メダカ(三和畜産)の

「浜名湖そだち」全国銘柄ポーク

好感度「コンテスト」第三位

全国からえりすぐられた十五の銘柄ポークが一同に集結し2000年食肉産業展が二月二十三日から二十五日までの三日間、東京ビッグサイトで開催され、その併設イベントとして「銘柄ポーク好感度コンテスト」が行われた。コンテストは、食肉産業展の来場者の自由参加によるアンケート方式で、各銘柄のロインの外観と味の二項目についてたずねたもので、質問①の外観については①肉色②脂脂色③肉質(キメ・締まり)の3つのうち③の肉質で三位に入った。質問②の味覚「試食して感じられた好感度」については①軟らかさ②おいしさ③風味の3つのうち、②のおいしさで位になった。質問①と②の総合得点では、「位埼玉」彩の国黒豚「二位」かごしま地養黒豚に譲ったが見事三位になった。コンテストは、用意したアンケート用紙が二日目の午後にはなくなってしまうほどの盛況だったという。「浜名湖そだち」は、静岡県製肉協会のフジヨーク・シンシユウ・フジロックの3元交配。飼料は丸粒とうもろこしが主体で抗菌剤、防腐剤などは使用しない。飼育方法は、SPFの種豚で病気が少なく、保水性の良い豚づくりを行う。加圧法や加

熱遠心法などの科学的方法で霜降り肉をつくり出している」と、4月11日付発行の食肉通信に掲載されている。この新聞を見ると、鹿児島県からは「銘柄輸出」されているが強い。でも、養豚から加圧まで、わが「めだかの生徒」のがんばりには頭が下がる。今回の食肉産業展には出品していないが、湖西豚を使った佐原剛メダカの「おらんビッグ」のハムソーセージもうまい。豊田市の生徒で畜産家の堀田望、正子メダカの肉も食べてみたい。両者も鈴木芳雄生徒のこだわり負けず劣らぬ強者である。

■隣同士「地域で支え合おう」と、

「自前で3級ヘルパー講座」に

榊原幸雄メダカ奮闘中

世は四月一日からはじまった介護保険制度で大きわぎ。そんな中で、めだかの学校の事務局がある引佐町久留女木地区では、「介護保険に頼るだけではなく、隣り同士、地域で支え合える」ところは、地域で支え合おう」と、民生委員・福祉委員・保健委員・介護福祉士・付録の榊原幸雄ら六人で、地域福祉を考える会「もみのき」を結成し、10数回の会合を重ねながら、「目的をもった方がいい」と、「3級ヘルパー資格取得講座」に挑戦することにした。いろいろ調べた結果、老人会でも認定講座の事業主体になれることを知り、久留女木老人会を事業主体に、「くもみのき会」が運営することで県へ申請書を提出。週間で認定はおりたがヘルパー3級資格を取るためには、五十時間の講義や実習が必要となる。講師は誰でもいいというわけではなく、介護福祉士の資格を持つ人や近くにある特別養護施設の職員、町の保健婦さんらの協力を得て実施することになった。久留女木地区は、戸数70戸、人工約二百九十九人、住民の三割が六十五歳以上、高齢者の夫婦だけで暮らす家庭もあり、介

護は地域の問題としても必要であった。実施にあたっては、「くるめきの会」の会員が各戸を廻って説明し、講座参加者を募ったところ、中学生から76歳の高齢者まで54人の希望があった。因みに70代16人、60代16人、50代14人。講座の開始は四月からで、一月、三月はオリエンテーションとして「介護は大変だ、ではなく、自らのこととして気楽にしよう」とゲームや実技などを通して介護の説明をした。四月五日から第二回の講座に入ったが、夜七時から九時までという時間帯なのに全員が出席という介護における関心の深さを知った。「介護する・される」にしても、知っている、いないとでは、大きな差がある。「年はとつても自分でできることは自分でしよう」と、高齢者の自立の精神が高いことは、講座を主催する者にとつて、こんなにうれしいことはない。県からも町からも援助もなく、毎回ひとり五百づつ払って、勉強することの意義は大きいと思う。九月には、補習授業を受けながらも、「3級ヘルパーの資格」を取つてゐる。希望の方は言つて、面倒見させてもらいます。

■三遠南信

ひとネットワーク「ゆめまる」

楽しい会があるからと誘われて入会したのが「めだかの学校」である。みんな活き活きしている。勝手に泳いでいる。主体性を持ちつつ参加している。そんな仲間達を中心に輪が広がり、三遠南信地域の人達と「ゆめまる」という会が発足した。「類は友を呼ぶ」というけれどみんな素敵な仲間達だ。テーマは「共生」。参加資格は「ひとが好き」「しぜんが好き」「ゆめが好き」というただそれだけの条件である。自分は何の特技もないけれど仲間達の中にいろいろな人達がいる。そんな仲間達に触発されて好奇心をかきたてられる。新しい自分を発見する。童心に戻る。青春時代にタイムスリップして眠っていた感

動が蘇る。「ときめき」「きらめき」声が弾む。今度はどうな仲間が入ってくるのか楽しみだ。出合いを大切にしたい。いい出合いにしたい。私達は待っている。新しい仲間達を。
(原 邦司生徒)

■蒲原だより

風さわやかな初夏。小川の水もぬるみはじめメダカたちが元気に泳ぎ回る季節となりました。今日は、遠く、蒲原町から皆さんに「メダカの花より」をお届けします。

蒲原は、かつて東海道の宿場町として栄え、いまも宿場の面影を残す町並みや東海道が運んだ文化の香る建物や工芸品などが数多く残っています。私達が「旧五十嵐邸」を考える会をつくり活動をしている大正時代の洋館「旧五十嵐齒科医院」もそんな歴史の建造物のひとつです。平成3年に県の建築士会の調査で評価を受け、平成10年に町が買収、町の「東海道を活かしたまちづくり」の拠点施設として整備が進められる予定で、従来の、役場が何から何まで企画し管理する施設ではなく、住民が企画し管理運営する新しい公共施設を目標に、平成11年3月に「旧五十嵐邸を考える会」が発足しました。そして、行政と住民という2方向の関係ではなく間に双方をコーディネートするコーディネーターをおき「旧五十嵐邸」の活用を住民参加でやってみよう、がんばっています。一時、町政のゴタゴタで整備計画が白紙になりましたが、減額はされたものの今年度予算で復活、来年の7月頃には修復工事が完了し、みんなが使える施設として蘇ります。季節のイベント「お月見の会」、ひなまつり明治大正おんなのきもの展、町が購入した竹久夢二の展示会、ガイドボランティアの養成などを行い、一人でも多くの方たちに「旧五十嵐邸」を知ってもらい、活用を考える仲間になつてもらおうと活動を進めています。将来は、自立できる、でき

ればNPO法人を目指そうと意気軒昂です。元気で、笑顔がすてきなおじさん、おばさんたちが頑張っている我が町に、是非、遊びにおいで下さい！
(蒲原町生活環境課 片瀬信江)

■達ちゃんの大坂だより

私たちが日頃当たり前のように食べている料理の中には、実は大阪が発祥の地のものがたくさんあります。たとえば、オムライス。これは西心斎橋にある「北極星」という店が発祥です。大正11年、北極星の1号店「パンヤの食堂」がオープンしました。同店は大衆向けの洋食屋を目指しており、そんな折、胃の悪い常連客が毎日オムレツをライスを頼むのを見かねた主人が、トマトソースで炒めたライスを卵を巻いて出した。これがオムライスの誕生といわれています。また、大阪といえは「たこ焼き」ですが、これは西成区の会津屋が発祥です。昭和8年母親の作った団子をヒントに肉とコンニャクを入れて丸く焼いた「ラジオ焼き」なるものが誕生しました。その後お客さんから明石ではタコを入れていてと聞いて、タコを入れたのが好評となり、今のたこ焼きのルーツが誕生したわけです。静岡ではソース味にかつお節が常識ですが、関西ではしょうゆ味がもともとの味です。このほか「うどんすき」は中央区の美々卯本店で、「しゃぶしゃぶ」は北区のスエヒロ本店で誕生しています。また、「きつねうどん」も明治6年中央区の松葉屋で誕生しています。「きつねうどん」といえば、関西には「きつねそば」や「たぬきうどん」はありませぬ。単にうどんに油揚げが乗っているのが「きつね」、そばに油揚げが「たぬき」なのです。ですから私たちが食べるたかすのついでにメニューはありませぬし、あるとしても他の名前では呼ばれています。大阪のこんな食文化の違いはまだあります。大阪のもう一つの名物焼肉。静岡からのお客さんと

焼肉店で食事をしたときのことです。友人がホルモン焼きが食べたいと「ホルモン」を頼むとクロテスクな肉が出されました。私たちが言う「ホルモン」は、関西では「テッチャン」と言い、「ホルモン」は内臓一般を言うのだそうです。「ホルモン」はもととが「ほおるも」(捨てるの意)からきた言葉なのだそう

です。
大阪から2年ぶりに静岡原森町に帰ってきました。皆さん今後ともよろしくお願ひします。「達ちゃんの大坂だより」は今回で終了致します。ありがとう。
(村松達雄生徒)

■元気の源！全国交流会in東京

さる2月17・18日、東京グランドヒル市ヶ谷を会場に「全国地域づくり団体研修交流会」(なんて長つたらしい名称が開催されました。今回は日本の中心地東京と言うことで、関東周辺からはもちろん、全国各地から400名を超える地域づくりの関係者が参加しました。17日夜は交流会。いろいろな人との出合いは本当に楽しいもの。しかしちょっと気になった事も。たった2時間しかない貴重な時間の中、来賓の方々の話の長いこと。なんと40分以上もお話になられました。1分、1秒でも無駄にしたいくない時間なのに。大勢の皆さんと大いに交流を深めて下さい。なんて言葉が何となく白々しく感じられました。18日は分科会での研修会。私たち遠州横須賀倶楽部とも交流のある、群馬県大間々町「ながめ累子の会」の事例発表を聞かせていただきました。取り壊し寸前だった古い余興場を舞台にしての活動、人々の心意気本当に素晴らしいものがあります。今回も、全国各地の元気者たちにエネルギーをたくさんいただいた2日間でした。次回は長崎県での開催が予定されています。また行つてみたいな〜！
(遠州横須賀倶楽部大番頭 鈴木武史)

トピックス

☆岩井代メダカ経営する「たちばなファーム」、七月中頃改装オープン。「作業所兼事務所ですが、安心して食べられる農産物、安心して立ち寄れる場所を目指して頑張ります。是非、そつとのおぞいで下さい。」
事務所の住所は、浜松市和光町です。

☆ハーブティーが最高！レモングラスの苗差し上げます。大須賀町、日本一のイチゴ園「赤頭巾ちゃん」のイチゴ摘み村「両隣の」なんでもあり農園」に取りに来て下さい。問い合わせ：遠州横須賀 民芸喫茶「風紋館」気付「なんでもあり農園」053714814375です。

☆ガーデニングで大活躍の木村智子メダカの本が成美堂出版から出版されました。「花と緑を楽しむ小さな庭づくり」というムック本で、二六頁、オールカラー、定価1200円。何もないと、少しづつ庭を作り上げる過程を紹介。おススメ植物カタログ付。参考になりますよ。書店でも販売しており、お草05314711948柴田芳明メダカのところにもあります。

☆四国良いとこ一度はおいで、毎日新聞浜松支局勤務だった、柴崎達矢メダカが四国に四月より転勤になりました。勤務先は、毎日新聞高松支局坂出駐在です。いいところですよ。こちらへお出掛けの際には是非お立ち寄り下さい。住所は、香川県坂出市駒止町一三一九駒止マンション303号。電話087714612424 FAX同じです。

☆加茂光廣メダカが案内役となつて、「絵本のような美しい街コッツイェルスと英国式庭園を巡る6日間の旅」。加茂メダカ、「ぜひやりたい」と、山崎敏明メダカの東海トラベルに頼んで企画しました。日程は、6月30日、7月5日までの4泊6日。浜松発の浜松着。費用は三十万八千円。問い合わせは、加茂光廣メダカ又は、東海トラベル053145613550 榊原又は川瀬まで。
(ハラメダカ)

メダカ春秋

◆「改革は我にあり」

「ジリ、ジリ、ジリッ。」2月第四土曜日、午後6時30分。超満員の中央公民館のホールに瞬の緊張が走る。私の所属する「演劇を楽しむ会」の本公演の開演のベルが、今年も鳴った。9回目の今回は、「病院亭年越し蕎麦」で地方の中規模な総合病院の清掃員の休憩所が舞台の人生ドラマである。私はというと、完全防寒装備で駐車場係を「生懸命演じていた。この役は、6年前まで毎公演していた私の一番得意とするもの一つである。私が初めてこの舞台に立ったのは、帰りの車を誘導していたときに、「ありがとう、良かったよ」と声をかけられ、とても嬉しく思ったからでした。その夜の打ち上げで、「今度は私も舞台に立つてみたい」と話したのです。次の年、中国の物語「袋の女」という台本が渡され、駐車場かかりの迷優へのサクセス・ストーリーの始まりでした。その年に限って、「袋の女」は、地元中学校、本公演、阿仁町への出前芝居として三度もやる事ができ、また自信もついたと思っていたが、セリフだけは今でも覚えが悪い。しかし、セリフを忘れて笑いのとれる唯一の迷優として、秋田県地域づくり活動表彰にエントリーした。そこでも短いセリフを忘れ、結果は優秀賞だった。反省会では、全国へ発信するだけが地域づくりじゃない。楽しくやる地域づくりだつて、地域づくりなんだよなと迷優は演説をしていた。鷹巣町の「〇〇キロチャレンジ・マラソン、西木村サラダハウスの「ありがとう文庫」と連続で自治大臣賞を秋田が受賞していたので、今年「演劇を楽しむ会」が東京で。敗北は、セリフを忘れた迷優にあり。一月に母が脳出血で倒れた。四月から介護保険制度がスタートしたが、私にとつては、家のバリアフリー化で在宅介護である。制度や条例が、世の中をよくするのではなく、そこに住む人、暮らす人が

◆事務局だより

◇中国茶の香りや味を楽しみながら「男のサロン」をやりたいと、京都の専門店に仕入れを兼ねて行ってきた。「金谷のお茶の郷」でも有名な講師を呼んで、中国茶やお茶のことについての講座をやりますよ」と言われて4月24日に行ってみた。館長の小泊重洋さんと話していると、なんとここでもメダカの生徒の名前がでること、「鈴木計芳さんは私の教え子です」「川島安一さんは、県の職員とは思えない言葉遣いで業者の人とやりあっています」：名前を出せばもういっはい。
◇五月はお茶の季節。4月30日には鈴木正士メダカのところへ、お茶摘み交流会。新茶を頂いて飲んでいるメダカもいるかも。お茶と言えど忘れてならない「お茶メダカ」。地球環境の視点からお茶づくりを目指す市川祐一・ブレンドを嫌い、浜川茶にこだわりのつづける鈴木計芳。生産農家でありながら、女性の視点で加工品づくりに力をもつて、河原崎泰子。静岡茶を世界へと奮闘している川島安一。彼らにとつての21世紀への夢は、「お茶」なのである。ほんとかなア。
◇では、あなたにとつての「21世紀への夢」は：第28回「6月2日の「めだかの学校」は「大いに語ろう21世紀への夢を！」がテーマです。8人の座長、8つの班に分かれて、午後7時～9時45分まで、「少人数でじっくり語ろう」と言うものです。「エッ、夢がない？」「いいんです、夢のないのも夢のうち。風呂敷を大いに広げ、ちよつと結んでいただいて240秒で発表していただければ。座長さん、よろしくお願ひいたします。21世紀は半年後、そのときあなたは……？。
(ハラ)

■8期の入校手続きを!!
8期は12年9月1日から
13年8月31日までです。
手続きが必要です。

継続生・新入生も手続きが必要です。
同封の入校申込書に記入し入校金1000円を添えて提出してください。
入校金納入をもって「めだかの学校生」となりますので、FAXでの申込みは受けません。
申込書をもって名簿を作成しますので、8月15日までに手続きをお取り下さい。
以降の入校・継続は認めませんが、名簿には掲載されません。

■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、8月1日ですので、7月20日までに事務局又はエヌビー静岡企画室照井泰子さんあて、FAXしてください。
FAX
053143513630まで。

めだかの学校事務局

〒43112531
静岡県引佐郡引佐町東久留女木
472-1111
「リンデンバウム」内 榊原幸雄
TEL・FAX
05315450381
※「つみくさ」は学舎のみです。
すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」をお願いいたします。